

講義名	日本語 B (聞く)	授業形態	
担当教員	Gehrtz 三隅 友子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4 時限
		単位数	2
		履修開始年次	1 年生
		ナンバリング・コード	JPN121

主題と概要

留学生に必要な日本語の「聞く力」の中でも、特に大学生として「講義を聞く」ことに焦点を当てる。現在、講義を聞いてもよくわからないという人に対して、まず様々な聞き方の方法を学ぶことを目標とする。20分程度の大学教員の講義を視聴して、実際にメモやノートを取ることから始める。提示された資料をどのように読むか、授業の準備のためにどのようにシラバスを利用するのかを一括に考えていく。学生（本来なら日本人学生と留学生）同士が、授業中にとったメモを見せ合って、教員の伝えなかったことや大切なことは何かを確認する作業も行う。CEFR指標B2

到達目標

- ・講義の聴解力には、準備と読む力、聞く力、書く力、話す力が総合的に必要であることと自分がどの力をつける必要があるかが明らかになる。
- ・複数の講義を聞いて、教員の日本語や話し方の違いから、自分の理解度が変わるのかを確認でき、また対処の仕方を知ることができる。
- ・複数の講義を聞いて、どのような分野に関しては内容がよく理解できるのか、あるいはできないのかを確認し、理解できないものにどのように対応するかをメタ的に考えることができる。
- ・講義をする教員への様々な働きかけを試み、双方の学びをみにつけることができる。

提出課題

- ・授業準備としての講義動画視聴とメモの作成
- ・授業内での聴解に際しての要約作成
- ・最終課題：講義最終日のミニ講義の視聴止め作成による理解度テストの実施

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- ・教員によるチェック
- ・学生同士のチェック
- ・最終的には自己評価の作成

評価の基準

- ・授業への取り組み度 20%・毎回の提出物 60% ・最終課題20%（講義を聞いてメモを作成 要約の作成）

履修にあたっての注意・助言他

- ・授業の前に必ず、講義動画を視聴してまず自分のメモを作成することが毎回要求される。予習と復習を必ず実施する人の受講を望む。

教科書

・留学生のためのアカデミック・ジャーナリズム-動画で学ぶ大学の講義。	東京外国語大学留学生日本語教育センター編著	スリーエーネットワーク社	2000	9784883197897
------------------------------------	-----------------------	--------------	------	---------------

参考図書

・留学生のためのアカデミック・ジャーナリズム聴解中級。	東京外国語大学留学生日本語教育センター-京外語学協会の協賛による日本語教育センター編著	スリーエーネットワーク社	2000	9784883196418
・留学生のためのアカデミック・ジャーナリズム聴解中級。	東京外国語大学留学生日本語教育センター	スリーエーネットワーク社	2000	9784883196876

その他

- ・テキスト、の動画、<https://www.3anet.co.jp/np/resrcs/408640/>
- ・講義との比較のために、授業内で「やさしい日本語ニュース」NHKの聴解も行う。

授業計画

- 第1回 授業計画とシラバス確認・自己紹介
復習・予習内容：「シラバスの確認、テキストとWebサイトの確認すること。・テキスト 第1課「排除」を聞いてメモを作成すること。（240分）
授業：「排除」を聞いて作成した内容メモの確認と意見交換。語の構成を知る。
第2回 授業方法を慣れる
復習：「排除」を聞いて作成した内容メモの確認と意見交換。語の構成を知る。
第2課「本座」聞く前の準備 聞く（メモを取る） キーワードの聞き取り一設問に答えて内容確認、要約例の確認、意見交換。メモノートの完成。
復習内容：「排除」「本座」を再度聞いて、メモノートの確認をすること。（120分）
予習内容：第1課「新幹線のおでこ」を聞いてメモを作成すること。（120分）
第3回 授業方法を慣れる
授業：「新幹線のおでこ」の内容メモの確認と意見交換。内容確認、要約の作成、構成の確認。
第3課「体験プレゼント」聞く前の準備 聞く（メモを取る） キーワードの聞き取り一設問に答えて内容確認、要約例の確認、意見交換。メモノートの完成。
復習内容：「新幹線のおでこ」「体験プレゼント」の聞き取りと音読をすること。・これまでもらったプレゼントで一番嬉しかったものあるいは一番困ったものどちらかを選んで、その事実と気持ちを400字以内で作文すること。キャンパスクロス(CX)にアップすること。（180分）
予習内容：第3課「そば屋ののれん」を聞いてメモを作成すること。（60分）
第4回 「私のプレゼント体験」発表
授業：プレゼント体験の発表 自分の体験を発表し他者の発表を聞く。内容確認と意見交換
「そば屋ののれん」聞く前の準備 聞く（メモを取る） キーワードの聞き取り一設問に答えて内容確認、要約例の確認、意見交換。メモノートの完成。
復習内容：「自分の原稿の訂正と改善を行い、CXにアップすること。」「そば屋ののれん」を聞いて音読練習をすること。（20分）
予習内容：受講中の講義で自身がわかりにくいと思うものについて考える。タスクシートの作成。CXにアップすること。（40分）
第5回 講義を聞く
授業：講義に関して情報交換。それぞれの問題となった講義について紹介する。どのように講義を聞いているから、メモとノートの取り方に関して解説する。
第12課「ガラスの天井」の文章を講義としてとらえ解説する。分割して聴きながらメモを作成してみる。最後に内容確認する。
復習内容：受講中の講義で自身がわかりにくいと思うものについて考える。タスクシートの作成。CXにアップすること。（40分）
予習内容：テキスト 第5課動画「外国人児童生徒と日本語教育」視聴。メモとノートを作成すること。（120分）
第6回 講義を聞く
授業：「外国人児童生徒と日本語教育」前半のみ視聴。授業者、背景の解説。メモとノートの確認。
復習・予習内容：「外国人児童生徒と日本語教育」再度視聴（120分）前半の内容確認、後半の内容のノート作成すること。（240分）
第7回 講義を聞く
授業：「外国人児童生徒と日本語教育」後半のみ視聴。授業者、背景の解説。メモとノートの確認。内容に関して意見交換（大人と子供の言語学習の違い等）
復習内容：「外国人児童生徒と日本語教育」視聴すること。（120分）
予習内容：テキスト 第7課動画「日本は国土が狭くて人口が多いという神話」視聴。メモとノートを作成すること。（120分）
第8回 講義を聞く
授業：「日本は国土が狭くて人口が多いという神話」前半のみ視聴。授業者、背景の解説。メモとノートの確認。
復習・予習内容：日本は国土が狭くて人口が多いという神話；再度視聴、前半の内容確認し、後半の内容のノートを作成すること。（240分）
第9回 講義を聞く
授業：「日本は国土が狭くて人口が多いという神話」視聴。授業者、背景の解説。後半のメモとノートの確認。日本と自国の国土と人口についての意見交換。
復習内容：「日本は国土が狭くて人口が多いという神話」視聴、ノートを確認すること。（120分）
予習内容：第9課動画「文化を読み解く」視聴。メモとノートを作成すること。（120分）
第10回 講義を聞く
授業：「文化を読み解く」前半のみ視聴。授業者、背景の解説。メモとノートの確認。
復習・予習内容：「文化を読み解く」再度視聴（120分）前半の内容確認、後半の内容のノートを作成すること。（240分）
第11回 講義を聞く
授業：「日本は国土が狭くて人口が多いという神話」視聴。授業者、背景の解説。後半のメモとノートの確認。日本と自国の部下の違いについての意見交換。
復習・予習内容：これまでの3つの講義のノートから内容を確認する。それぞれの講義について（講義者、内容）の感想をタスクシートに記入する。さらにこの違いについてなぜかを自分で考えて記述すること。（240分）
第12回 講義を聞く
授業：講義に対しての考えを交換。第10課「文化権 人権のシンジセラ」動画前半の部分視聴視聴。実際にノートを作成してみる。互いのノートを見せ合って確認。
復習・予習内容：前半のみの視聴とノートを確認すること。（240分）。
第13回 講義を聞く
授業：「文化を読み解く」後半の視聴とノートを作成する。内容確認。メタ的な講義への感想。自らの取り組みに対する自己評価の交換。
復習・予習内容：「文化を読み解く」視聴、享受後に伝えたいことは何かを考えること。（240分）
第14回 講義を聞く
授業：担当教員によるミニ講義20分 準備 視聴 メモとノートの作成 質疑応答
講義に対する内容、方法、教師の話し方、さらに内容の関心についてメモを作成する
復習・予習内容：別の担当教員の動画視聴し自分の自己評価表を作成してCXにアップすること。（240分）
第15回 講義を聞いて理解するとは
授業：視聴動画の解説、ノートと理解度の確認をする。
最後に自らの講義への取り組み方や教師にどのように自分の考えを伝えるかを共に考える。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

講義を聞く作業を通して「他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる」さらに、「他者との間に信頼し合う関係を築くことができる」を、目指す。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・テキストと併用して講義動画をWebサイトから自分の好きな時間に取り出して視聴を行う。ICTを活用し自分が主体となって学ぶ体制を支援する。

実務経験の有無及び活用

備考

当初の指標はCEFRのB2だが、受講生のレベルに合わせて、講義内容をA3からB1へと広げる可能性もある。また講義の進め方も時間ととって、内容を減らして実施する予定である。